

六郷を探る会

～二木・三本塚編～



平成 16 年 11 月 10 日
仙台市六郷市民センター

《二木・三本塚地区》

二木・三本塚は種次の北に位置し、名取川の下流の左岸、宮城野海岸平野の後背湿地に立地し、西は今泉である。字名に中谷地・深谷地・荒谷・赤沼・袋

谷地・井土堀・境堀・潮入などがあり、荒れ地・湿地・水路などに関するものが多い、地区内を大谷堀が東流し、東の井土浜との境は井土浦川である。文政六年(1823)の二木村絵図（仙台市博物館蔵）によれば、村は南部が二木、北部は三本塚に分かれており、二木村肝入興蔵と並んで、同二木村之内端三本塚肝入卯八郎の名がみえ、村方行政が分かれていたことがわかる。

* 二木の地名の由来

寛永九年(1632)の長稱寺記録（二木律家蔵）によると当村水神^{みずがみかこい}圀に任する二木氏の姓から出たという。

* 三本塚の地名の由来

かつて、この地に亀塚・鶴塚・朝日塚といわれた三つの古墳があったので、この地名が付いたといわれている。亀塚は塚の中からカメ（甕）が発掘されたので、甕塚といったのが亀塚と呼ばれるようになったといわれている。鶴塚は、昔近くの赤沼のほとりに一人の美女がいたが、ある時村人達が娘を呼びだし素性を尋ねたが、一言も口を利かなかった。そこで一人の村人が刀で斬りつけたところ、大蛇の姿になって逃げて行った。その剣を埋めたのでツルギ塚といったが、亀に対してツル塚となったと言われている。朝日塚は昔この辺に住んでいた朝日長者が埋めたという黄金の塚なのでその名が付いたといわれている。また、一説には、三宝塚から訛ったものだということもある。

* 三本塚公会堂前

昭和34年から始まった耕地整理のために、「亀塚古墳」から移築された。



<湯殿山碑>



<山の神> <お地蔵さま>



(昭和35年亀塚で移築のためのご祈禱を捧げている)

1 山王原(サナバラ)屋敷跡 三本塚字権太 71 付近



現在は畑になっている。

天保八年（1897）から幕末にかけて書かれた三本塚の佐藤家文書によると、二木屋敷という名称の小字の地が見られ、この地に山王神が祀られていた。二木屋敷には長稱寺住職の先祖が住んでいたものと言われている。

また、別の古文書（二木家の長稱寺記録）には、寛永三年（1663）二木山王神（現在の二木字新原 90 番地付近）の大木に落雷があり山王神は焼失したとある。この跡地を山王原（サナバラ）屋敷と言い伝えたとされているが、別の場所にも存在する。

地名の「三本塚権太（ごんた）」の権太は、権・太夫を補佐する二木氏を称しているものと推測される。（例 竹駒神社の^{ねぎ}禰宜、^{ごんねぎ}権禰宜）

2 亀塚古墳跡地 三本塚字権太 98 番地付近



（昭和 35 年頃撮影・現在は田んぼになっている）

三本塚の地名の由来とされる亀塚・朝日塚・鶴塚の三つの塚のひとつで、古墳であるとされるが昭和 37 年（1962）頃の耕地整理により煙滅した。

亀塚古墳は古墳時代初期の前方後円墳で全長約 30m あったとされている。六郷地域に勢力の中心を置いた豪族の墓であったと推測される。

六郷地区内に現存する古墳では、直径約 10m の円形古墳の『下飯田薬師堂古墳』（飯田字中橋 53 番地付近）がある。

3 弁天様 二木字赤沼下 6－1

佐藤家の氏神様で、1600 年以降の津波の後（1601）に、新田開発に郷六（現在の青葉区）から来た時に建立されたと言われている。



（田んぼの真ん中にあるので、あぜ道を通って行かなければならない）

4 畠山稻荷神社 三本塚字赤沼下 16 番地付近



(太神宮)

天正十七年（1589）朝日塚の上で毎朝日輪（太陽）を拝む老人、を稻荷大明神の生まれ変わりとして、地元の佐藤家（三本塚字境堀？）が建立したのとされている。（佐藤家の文書より）

この佐藤家については、慶長十六年（1611）の大地震・津波により荒地となった三本塚の地を、元和年中（1625～23）郷六（青葉区愛子）の佐藤出雲家友がお上に耕地開発を願い出、許されて開墾したとされる。この佐藤家と出雲家友とは関係があると伝えられるが、詳細は不明である。

元禄十年（1697）前後の除屋敷帳（家臣の在郷屋敷や寺院など、税が免除される屋敷）には、二木村のうち三本塚の地に『稻荷神社・八尺四面茅葺・別当仙台両全院』と記されている。

5 長稱寺 二木字水神 2 番地



< 長稱寺山門 >



< 本 堂 >

長稱寺建立には三つの説がある。

- * その1 (長稱寺記録)・・・二木家二代常廣(出自不詳)が、秋田の蝦夷・俘囚による「元慶二年反乱」(876)鎮圧の功績により、同四年(878)以降在地領主として陸奥国に住むようになった。十一代和義の嘉禎二年時代(1236)に空海法師に帰依し灰練仏像(奈良時代のものとされ、長稱寺に現存するといわれている)を賜った。
- * その2 (名取郡誌)・・・天文二十一年(1552)二十代正宣までは武士であったとされ、二木字笠神地内に天台宗長泉寺(廃寺)を二木氏の菩提寺にしていた。その後、二十一代帯刀の時代になり、元龜二年(1572)に現在の二木字水神地内に建立し、代々二木家が継承するようになった。
- * その3 (封内風土記)・・・仙台北城下正楽寺末で弘治元年(1555)玄長(帯刀を改名)の開山で、本尊は阿弥陀如来である。(玄長は 武田信玄の家臣二木正義の子といわれ、正義は家臣数十名と共に現在の二木字水神地内に住んだ。



＜長稱寺由来碑＞

祖ニツ木正則天長二年（西暦八二五年）時の空海法師より守り本尊として灰練仏を賜り蝦夷征伐のため赴き当地に住みつく。二代目ニツ木常廣元慶二年（西暦八七八年）奥羽の乱を平定。以来、在地領主として二十一代即七百有余年武士として続いた。ニツ木家は二十一代ニツ木正義の子帯刀、天文二十三年（西暦一五五四年）信州川中島の戦に奥州より援軍として七度の合戦に参戦し仁信なる功に対し、武田信玄公より褒賞を受けしが多くの家臣を失ったことを哀れみ、弘治元年（西暦一五五五年）出家、帯刀を玄長と改め真宗に帰依し、一族の霊に長く念仏を称えるため「長稱寺」と号し天正十六年（西暦一御五九〇）館跡に寺を建立開山とした。ニツ木家の領地は一族に開発し、二木氏の名を地名として残され、以来、長稱寺は歴代二木家にて継承され法燈を護持し今日に至る。

歴代住職

開基開山 （二木玄長く第十五世まで記される）

時 昭和六十二年三月 （長稱寺境内）

水白山長稱寺第十四世 二木 律 敬白

坊守 二木 さと 建立

(由来碑文)

5 日吉神社(山王宮) 二木字山王20番地付近

日吉神社もまた二つの説がある。

- * その１・・・二木家二代常廣（出自不詳）が、秋田の蝦夷・俘囚による『元慶二年反乱』（876）鎮圧の功績により、同四年（878）以降在地領主として陸奥国に住むようになった。十二代興敬^{ともたか}の弘安四年（1282）に山王神を祀る。十三代実友^{さねとも}の延慶二年（1309）に山王神を二木家の氏神として祀ったとの説。
- * その２・・・文亀二年（1502）二木村の勘左衛門なるものが伊勢参宮の際、近江国の坂本に鎮座する日吉神社を分霊し、二木字山王の地に奉祀したという伝説がある。二木家の氏神も同祀したのが日吉神社であろうといわれている。



南無阿弥陀仏

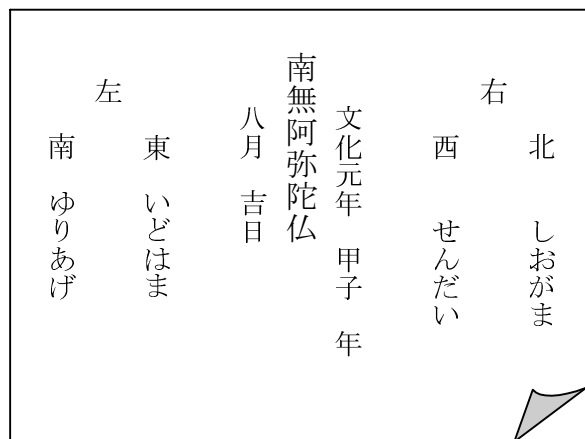
馬頭観音

湯殿山碑

山の神



< 道 標 >



(神社合祀碑)

明治 43 年に三本塚の稲荷神社、日辺の日
辺神社・日ノ宮八幡神社・宇佐八幡神社、今
泉の熊野神社・八坂神社・今泉神社の 8 社を
合祀した。

7 昌林寺 三本塚字権太 47 番地

『皇国地誌』(1878 年頃)によると、二木村に「昌林寺：面積八畝二十九歩、曹洞宗昌傳庵の末派なり。村の中央にあり、慶長十九年(1614)僧雲室開基創建」と記されている。本尊は地藏尊である。

「六郷を探る会・二木・三本塚地区」

編集 「六郷を探る会」編集委員（五十音順）

小田島 政雄・桜庭 哲朗

佐藤 勝五郎・佐竹 清造・庄司 壽夫

西大立目 祥子・平間 和子

若生 昭弘（六郷市民センター館長）

石垣 祐子（六郷市民センター）

発行 仙台市六郷市民センター

若林区今泉一丁目 3-19

TEL 022（289）5127

FAX 022（289）6359

2004年（平成16年）11月10日